# 乳児期の極低出生体重児を対象とした親子教室（神戸市における地域化への試み）

（分担研究：ハイリスク児の発達支援（早期介入）システムに関する研究）
研究協力者：上谷良行[1)]
共同研究者：高田哲[1)]、常石秀市[1)]、中村肇[1)]、佐藤真子[2)]、片岡佐枝子[3)4)]
中尾秀人[5)]、大倉完悦[6)]、福田千津子[7)]、堤荘祐[8)]

要約：極低出生体重児の母親のもつ育児不安の解消及び健全な母子関係の確立を目標に、神戸大学周産母子センターを退院し修正月齢6か月に達した極低出生体重児と母親を対象にして、神戸市総合児童センター、児童相談所と協力して親子教室を開設してきたが、本年度は兵庫県立こども病院周産期医療センター、神戸市立中央市民病院新生児センターの参加を得てひろく地域全体での展開を試みた。参加人数が増加し、受入側の人員を増員するなど対応に苦労があった。問題点としては、広域から入院患者を受け入れていることもあり、地理的な問題で参加できない母親が多く、今後地域の福祉機関との連携が必要である。また、これまでの実績が評価され、この教室が市の事業として組み入れられる予定で、今後は保健婦の参加を得ることによって、保健婦の未熟児に対する訪問指導の充実などが図られると考えられる。

見出し語：極低出生体重児、親子教室、乳児期、育児不安、母子関係、地域化、保健婦

緒言：近年、新生児医療の進歩に伴い極低出生体重児の生存率が著しく改善したことにより、その長期予後も次第に明かとなり、これらの子供達が発達上の様々な問題点を持っていることが指摘されている。極端な少子化の進んだ今日、成熟新生児の親ですら如何に育児を進めるかを模索している中で、極低出生体重児に対する親の持つ育児不安の大きさは容易に想像がつく。この育児不安を少しでも解消し、よりよい親子関係を作り上げるための援助として、極低出生体重児を対象としたearly intervention programが各地で試みられている。神戸市でも、神戸大学小児科、発達科学部、神戸市総合児童センター、神戸市児童相談所、神戸常盤短期大学、神戸親和女子大学の6機関が協力して平成6年度より極低出生体重児支援のための親子教室を実施してきたが、本年度は兵庫県立こども病院周産期医療センター、神戸市立中央市民病院新生児センターの参加を得てひろく地域全体での展開を試みた。

対象及び方法：対象は神戸大学周産母子センター、兵庫県立こども病院周産期医療センター、神戸市立中央市民病院新生児センターを退院し、修正月齢6カ月に達した極低出生体重児で、療育施設などで定期的な指導を受けている児は除いた。平成9年4月より6か月ごとに1クラスずつ開始し、修正月齢6カ月に達した児と母親が各クラスに15～30組参加した。各々のクラスは月1回の割合で開催し、育児不安の解消と健全な母子関係の確立を目標に、小児科医、教育心理学者、臨床心理士、保母、看護婦、助産婦、心理相談員、ケースワーカー、音楽指導員、大学院生など約15名のスタッフが加わったが保健婦の参加がなかった。。今回は3施設の退院児になったので、各医療機関の看護婦もできるだけ参加してもらうようにした。母親用のプログラムとしては、毎回宿題テーマを設定し全員での話し合いを中心とした。子供用のプログラムは、親子体操、ボール遊び、粘土遊びなどを月齢に応じて用意し、母親と子供が一緒

---

Early intervention for very low birth weight infants of toddler age in Kobe city

神戸大学小児科[1)]、発達科学部[2)]、神戸市総合児童センター[3)]、神戸市児童相談所[4)]、兵庫県立こども病院周産期医療センター[5)]、神戸中央市民病院新生児センター[6)]、神戸常盤短期大学[7)]、神戸親和女子大学[8)]
Department of Pediatrics, Kobe university school of medicine[1)], Kobe university faculty of human development[2)], Kobe complihensive children's center[3)], Kobe child rearing guidance office[4)], Kobe children's hospital perinatal center[5)], Kobe city general hospital[6)], Kobe Tokiwa college[7)], Kobe Shinwa women's college[8)]
Yoshiyuki Uetani[1)], Satoshi Takada[1)], Shuichi Tsuneishi[1)], Hajime Nakamura[1)], Masako Sato[2)], Saeko Kataoka[3)4)], Hideto Nakao[5)], Kanetsu Ohkura[6)], Chizuko Fukuda[5)], Sousuke Tsutsumi[8)]

になって行う遊びを中心に構成した。場所は主として神戸市総合児童センター内の『生活室（和室）』を利用した。

結果：1）平成8年10月から平成9年4月に修正6か月に達する児は3施設で65名、平成9年4月から10月までに修正6か月に達する児は31名あったが、参加したのはそれぞれ31名と15名であった。2）施設のちがいによる親同志の違和感は特に見られなかったが、顔見知りと言うこともあり、各施設毎で自然に母親同志のグループが形成さた。3）本プログラムの評価については、厳密な比較試験ができないため、通常のフォローアップ外来での発達評価をそのまま用いている。実際に新版K式を用いて評価した最近の症例を表に示すが、まだ症例数も少なく、評価が適当かどうかも今後引き続き検討する必要がある。

（考案）このような発達支援プログラムを継続的に実施するには、一医療機関のみでは十分な人的資源や場所の確保が困難である。地域の複数の医療機関、教育・福祉機関が協力して実施すれば、福祉行政面からの支援も得られやすい。実際、神戸市においてもこれまではこの教室が児童相談所内の一事業として実施されてきたために、経済的にも十分なサポートがなく、ほとんどボランティア活動であった。しかし、これまで4年間にわたり実施してきたこと、本年度対象を広げて人数が増加したことが実績として認められるに至り、市の新規事業に組み入れられる見込みで、予算も獲得できる予定である。さらに保健婦の参加も可能となり、保健婦に対する未熟児新生児医療の教育という観点からも極めて大きな成果が期待される。即ち、現在行われている未熟児に対する保健婦の訪問指導が、このような教室に参加することを通して未熟児について十分に知識を持った保健婦により実施されるために、より充実したものとなり、最終的にはこのようなプログラムに参加できない母子に対する支援として訪問指導を確立させることが可能となると考えられる。

（今後の問題点）本プログラムには、神戸市以外の広い地域からの参加者も多いため、今後は各地域の福祉機関とも協力し、地域内での実施も考慮していく必要がある。

**極低出生体重児の新K式（１８か月時）の結果**

**親子教室参加者**　　（修正）

| No | 氏名 | 生年月日 | GA | BW | IUGR | 検査月齢 | 全領域 | 姿勢・運動 | 認知・適応 | 言語・社会 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | A.T | H6.11. 7 | 30W6D | 1422 | | 21(19) | 73(81) | 83(93) | 69(77) | 76(84) |
| 2 | M.F | H6.12. 6 | 26W3D | 860 | | 21(18) | 62(73) | 66(77) | 61(71) | 62(72) |
| 3 | H.F | H6.12. 6 | 26W3D | 890 | | 21(18) | 66(78) | 66(77) | 64(76) | 77(90) |
| 4 | K.F | H6.12. 6 | 26W3D | 894 | | 21(18) | 64(75) | 67(79) | 64(76) | 57(67) |
| 5 | E.T | H6.12.26 | 26W6D | 872 | | 22(19) | 80(93) | 92(106) | 70(81) | 100(116) |
| 6 | M.M | H7. 2.28 | 34W0D | 1292 | ○ | 20(18) | 81(86) | 79(85) | 84(90) | 68(73) |
| 7 | S.T | H7.11.26 | 31W1D | 1456 | | 22(20) | 96(106) | 126(139) | 95(105) | 86(95) |
| 8 | Y.T | H7.11.26 | 31W1D | 1160 | | 22(20) | 87(96) | 126(139) | 84(92) | 73(81) |
| 9 | N.H | H7.10. 3 | 26W0D | 808 | | 23(20) | 75(87) | 77(89) | 75(87) | 70(81) |
| 10 | T.T | H7.11. 2 | 28W0D | 940 | | 22(19) | 87(99) | 80(92) | 89(102) | 86(98) |

**参加回数１～２回のみ**

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | Y.T | H7. 9.10 | 25W1D | 744 | | 23(19) | 93(109) | 79(93) | 96(114) | 92(108) |
| 12 | N.N | H7.11.11 | 25W4D | 842 | | 23(20) | 72(84) | 76(89) | 69(80) | 82(95) |
| 13 | S.Y | H8. 1.11 | 27W5D | 708 | ○ | 23(20) | 80(91) | 77(88) | 78(88) | 90(102) |

**非参加者**

| No | 氏名 | 生年月日 | GA | BW | IUGR | 検査月齢 | 全領域 | 姿勢・運動 | 認知・適応 | 言語・社会 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Y.F | H6.12.28 | 32W1D | 994 | ○ | 22(21) | 94(102) | 80(87) | 98(106) | 93(101) |
| 2 | M.M | H7. 4.10 | 28W6D | 920 | | 22(20) | 85(96) | 80(91) | 89(101) | 73(82) |
| 3 | M.F | H7. 6.23 | 28W2D | 1032 | | 23(20) | 70(79) | 78(88) | 68(77) | 71(80) |
| 4 | N.A | H7.12.12 | 27W3D | 912 | | 22(19) | 77(89) | 80(92) | 80(93) | 60(70) |

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:極低出生体重児の母親のもつ育児不安の解消及び健全な母子関係の確立を目標に、神戸大学周産母子センターを退院し修正月齢6か月に達した極低出生体重児と母親を対象にして、神戸市総合児童センター、児童相談所と協力して親子教室を開設してきたが、本年度は兵庫県立こども病院周産期医療センター、神戸市立中央市民病院新生児センターの参加を得てひろく地域全体での展開を試みた。参加人数が増加し、受入側の人員を増員するなど対応に苦労があった。問題点としては、広域から入院患者を受け入れていることもあり、地理的な問題で参加できない母親が多く、今後地域の福祉機関との連携が必要である。また、これまでの実績が評価され、この教室が市の事業として組み入れられる予定で、今後は保健婦の参加を得ることによって、保健婦の未熟児に対する訪問指導の充実などが図られると考えられる。